

| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

大分市地域まちづくりビジョン

大分地域ビジョン会議 通信 第4号

発行：大分地域ビジョン会議事務局

この通信は、地域ビジョン会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域の皆様にアンケートを実施いたします。

これまで、市内13地域において、地域の代表者等で構成する『地域ビジョン会議』を設置し、それぞれの地域における現状や課題を整理しながら、将来のまちづくりに向けた議論を深めてまいりました。このたび、第4回大分地域ビジョン会議を開催し、地域の目指すべき将来像やその実現に向けた取組（事業案）がまとまりましたのでお知らせします。

取組（事業案）について地域の皆様にもご意見をうかがいながら、「大分地域まちづくりビジョン」を取りまとめまいります。

【アンケート調査を実施します】

◇下記の「大分地域の将来像（まちづくりのコンセプト）」と「その実現に向けた取組事業案（右欄の一覧）」について、「大分地域まちづくりビジョン」として、将来のまちづくりに向けた提言をとりまとめるため、地域にお住まいの皆様のご意見を募集しています。

将来像や事業案に対するご意見等を以下の方法でお知らせください。

＜受付期間＞ 平成30年3月15日（木）～平成30年4月16日（月）

＜回答方法＞

- ①大分支所に備え付けのアンケート用紙にご記入のうえ、回収BOXに投函
- ②大分市ホームページの「パブリックコメント」から、応募専用フォームで回答

※アンケート回答フォームへのアクセスは右記QRコードも利用いただけます。



【QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。】

地域の将来像（まちづくりのコンセプト）

魅力ある みんなでつくる 元気なまち～Machi

「魅力ある」は、便利が良く、文教地区であり、安全・安心が保たれているまちを表しています。また、「みんなでつくる」は、子ども世代からおじいちゃん、おばあちゃんの世代に至るまちづくりを表し、「元気」は、スポーツが盛んなところから元気のあるまちをイメージしています。最後におしゅれに「Machi」と付けました。

将来像の実現に向けた取組み（事業案）一覧

①大学生が動けるようなコミュニティ事業

- ・大学生と地域の子どもや大人とのふれあい(コミュニティ)の場をつくる
- ・大学の活動において犬飼で地域のお祭りの手伝いや、子どもに歴史を教えたりしている

②高齢者と子どもが一緒に集える場づくり

- ・共働きの家庭が多く、子どもが一人での時間が長いので、地域の子どもと高齢者が集える場所ができればよい

③学校施設の整備

- ・大分市東部に小中一貫校を建設する
- ・大在小と大在西小の距離が近くバランスが悪い(横塚の子が通学に1時間かかっている)
- ・地域の署名運動で13,000人の署名が集まった
- ・大在東部の子ども避難場所が必要

④大在の南側高台に総合文化(スポーツ)施設を整備

- ・避難場所、文化、スポーツ施設が無い
- ・津波からの避難場所という観点からも大在の南側に整備してはどうか

⑤災害時などに文理大生の協力を得る事業

- ・日本文理大学の学生に自然災害発生時、手助けしてもらえらる組織をつくる
- ・その組織に加入すれば、大学や市の補助などで下宿代を安くする等

⑥先進的地域密着型防災組織づくり

- ・災害時の生活、防火用水等確保のため、災害用井戸の普及等に取り組みたい
- ・Jアラートによる情報伝達された際、聞こえる範囲が限定的であるため、より広範囲に周知できるシステム構築

⑦ふるさと魅力づくり事業(・3世代が豊かに暮らせるまちづくり ・多世代ふるさと事業)

- 若者が帰ってきて住み続けるまち
- ・企業誘致により雇用を創出し、生活基盤を支えるまちづくり
- ・世代間交流(現在3世代が交流する行事が無いので、シャトルバス等により広範囲に参加者を募集できるようにする等)
- ・大在の魅力づくり(県外に出て行った人たちが大在を振り返ることができるSNS等を用いたツールの検討)
- ・大在のブランドづくり(商店と協力して大在のお土産づくり等)

⑧平成のまち大在の観光事業

- ・観光事業に力を入れ、大在を「平成のまち」にする
- ・道の駅を作ったり、バスで三井造船や文理大学の見学に回れるようにする
- ・長期スパンで地元の商店が潤う事業の構築

⑨自転車(サイクリング)を活かしたまちづくり

- ・大在商工青年部が春にサイクリングのイベントを実施しているが、このようなイベントを推進したい。ただし、大在のまちなみがサイクリングを行うには合致していない状況
- ・イベント実施するための啓発活動やハード整備が必要

⑩イベント広場(ステージ付きの公園など)の整備

- ・大在には子どもから高齢者までが使える公園が多いが、イベントを実施する時、設備が不足しており不便
- ・公園にステージを設置して音楽など様々なイベントに利用できるようにする

⑪緩衝緑地帯(松林)の整備事業

- ・緩衝緑地帯(舞子浜緑地)に大人や子どもがふれあえる場所を整備する。
- ・散策しやすい歩道、松林を活かした遊具の設置等。

⑫河川(江川)、海岸線、ため池の有効活用

- ・大在の地理的環境を活かして、江川に遊歩道の整備や昔の海岸線が残っている部分を活用し、釣り場を整備するなど親水事業に取り組む
- ・併せて災害対策に避難場所の整備も必要